

2011年3月期 決算 IR 説明会(2011/4/28 開催)質疑応答内容

Q:自動車事業の業績改善により、機械部門の2012年3月期経常利益見通しは前期比55億円増の75億円とのことだが、自動車事業の足元の状況を教えてほしい。

A:業績が低迷していたベネズエラおよびロシアの自動車事業会社の業績が改善し、今期黒字になる見通し。しかし、東日本大震災による影響もあり、収益は限定的だろうと見ている。一方、アジアの自動車事業が前期に引き続き堅調に推移すると見ている。

Q:エネルギー・金属部門の2012年3月期経常利益見通しは、前期比8億円増の295億円とのことだが、原油価格の前提条件、鉄鋼関連会社の持分法投資利益、石炭事業の今期業績見通しをどのように見ているのか。

A:今期の通期業績見通しについては、原油価格US\$90/bblを前提条件として策定している。鉄鋼関連会社の今期業績見通しは、震災の影響はあるものの、前期比増加を見込んでいる。また、石炭事業については、一般炭は基本的に年間契約であることから、今後の価格上昇の影響を受けないが、スポット取引も行っており、それが収益の上振れ要因になるかもしれない。

Q:豪州の豪雨による今期の石炭事業への影響について教えてほしい。

A:豪州の豪雨による石炭事業への影響については、生産活動そのものは、水没等の影響は少なく、巡航速度ベースにほぼ戻りつつある。一方、輸送手段である鉄道の回復が浸水の影響で遅れている。しかし、石炭価格も上がってきていることから、収益は前期比並みになるだろうと見ている。

Q:タイの肥料事業について、足元のマーケット・事業環境について教えてほしい。

A:タイの肥料事業は、前期が想定以上に好調だったが、昨年9月下旬から施行されているタイ政府による肥料主要4品目の価格統制の影響を受けて、2012年3月期は大幅な減益を見込んでいる。引き続き、価格統制については、その動向を注視していく。

Q:2012年3月期におけるその他セグメントの当期純利益見通し▲130億円について、具体的に教えてほしい。

A:その他セグメントの2012年3月期見通しには、本社社屋移転費用および繰延税金資産の取崩しによる影響を織り込んでいる。

Q:持分法投資損益の2012年3月期見通しは190億円とほぼ前期並みだが、その内訳をどのように見たらよいか。

A:持分法投資利益の前期実績と今期見通しの最も大きな違いは、前期にブラジル・バイオエタノール生産会社が同業他社との統合により一時的な利益を計上したことである。今期は、その一時的な利益がなくなる一方で、資源関連の市況が高値で推移していることから、合金鉄や鉄鋼関連会社等の増益が期待でき、前期並みの水準を維持できる見込みである。

Q:今回、発行可能株式総数の変更に關わる定款の一部変更を発表したが、その目的は何か？エクイティファイナンスを実行する考え方があるのか？

A: 定款の変更については、当社の発行済株式総数が発行可能株式総数の上限に近付きつつあることから、発行可能株式総数の上限を適正水準に変更することが最大の目的である。
エクイティファイナンスの実行可能性については、それ以前に、まずは収益力を回復させ、株主価値を向上させることが最重要であると認識している。

以上